

「国際母語デー」を祝うイベント

「国際母語デー」を祝うイベントがジャパンバングラデシュサエティ主催で2010年2月21日(日)に、東京都豊島区池袋の西口公園で盛大に開催されました。今年で2回目のこのイベントには、日本からも、アイヌの言葉や文化の継承に尽力されているアイヌ民族衣装作家の宇梶さんと島田さんにも参加して頂きアイヌの歌や舞踏の披露で会場は大いに盛り上がりました。三菱広報委員会のご厚意で貸出して頂いた「世界の子供たちの絵日記」展も会場に花を添えて、としまTV、朝日、産経、東京新聞にも、このイベントの様子が掲載されました。

東京新聞

2010年(平成22年)2月22日(月曜日) 山手 地域の情報 20

「国際母語デー」に豊島区でイベント

二十一日はユネスコが制定した「国際母語デー(言葉の日)」。豊島区西池袋の池袋西口公園に、バングラデシュやフィリピンの人々が集まり、言葉の日を祝った。世界の数千の言語のうちには、消えてしまいそうな言葉や使うことを禁じられた言葉もあり、そうした言葉を守るのが趣旨。

この日は、「友情」「勇氣」など好きな言葉を、子どもたちが葉の形の紙に書き、舞台上に設けた幹に飾って、言葉の木を作った。またアイヌ民族でつくる「レラの会」がムックリを演奏したり、踊りを披露。フィリピンやミャンマーの子どもたちが歌や詩の朗読をして、母語を守る運動を盛り上げた。

国際母語デーは、一九五二年のこの日、バングラデシュ(当時は東パキ

スタン)で、ベンガル語を公用語として認めさせようとしたデモに警官隊が発砲し、死亡者が出たことにちなむ。池袋西口公園には、二〇〇五年にバングラデシュから豊島区に贈られた「シヨヒド・ミナル」という記念碑があり、母語を守るシ

ンボルとなっている。日本バングラデシュサエティのA・シェイク副理事長は「言葉は文化のもと。言葉を守ることで多様な文化が育つ。これからも多文化の交わりの面白さ、大切さを伝えていきたい」と話していた。



消えそうな言葉 守ろう

民族楽器で音楽を奏でるバングラデシュの人々(豊島区で)

世界の言葉 モニュメント彩る 池袋で「国際母語の日」イベント



様々な言語の振興を通じて多様な文化の共存を目指す「国際母語の日」の21日、バングラデシユ人や日本人、ミヤンマー人、米国人らが池袋西口公園に集まり、国際母語の日を祝うイベントを開いた。板橋区のNPO法人「ジャパンバングラデシユソサエティ」が主催した。

国際母語の日は、世界に約6千ある言語のうち、半数近くが21世紀中に消滅の危機にあるとして、国連教育科学文化機関(ユネスコ)が1999年に制定した。

イベント会場の池袋西口公園には、バングラデシユ政府から2006年に贈られた国際母語の日を象徴するモニュメントがある。集まった子どもたちは、それぞれの母語で「友情」「勇気」「ありがとう」など思い思いの言葉を葉っぱの形をした紙に書き

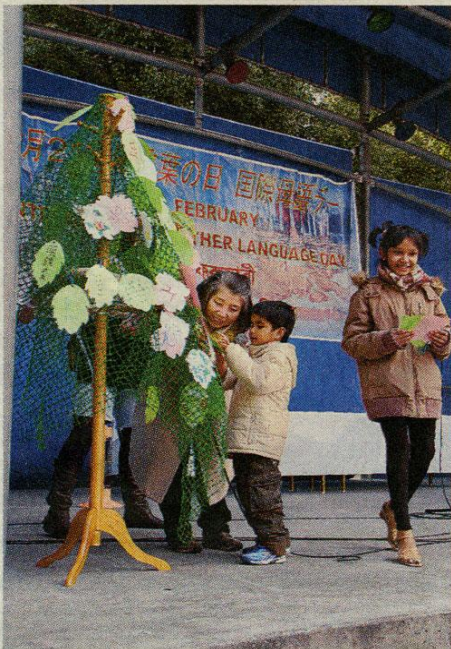
真、音楽に合わせて踊り出す人もいた。モニュメントを作った真、音楽に合わせて踊り出す人もいた。モニュメントを作った真、音楽に合わせて踊り出す人もいた。モニュメントを作った真、音楽に合わせて踊り出す人もいた。

消えゆく言語守ろう

外国人ら池袋で祝典

消失していくさまざまな民族の言語文化を守るため、国連教育科学文化機関(ユネスコ)が制定した「国際母語デー」の21日、豊島区の池袋西口公園に、日本で暮らす外国人や少数民族の人たちが集まり、祝典を開いた。

在日バングラデシユ人の団体が主催し、ミヤンマー、フィリピン、インド、中国などから来た人々やアイヌ文化を受け継ぐ5人が参加した。



祝いの歌を民族音楽に乗せて披露した後、参加者たちがステーションに置かれた「言葉の樹」に、さまざまな言語で好きな言葉を書いた紙の葉を飾った。写真。

世界に残る約6千の言語のうち、半数近くが今世紀中に消失の危機にあるといわれており、1952年に旧パキスタンでベンガル語の公用語化運動のデモ中に犠牲者が出たこの日が言語尊重運動の記念日とされた。

ジャパンバングラデシユソサエティのシエイク・アリムザマンさん(51)は「日本でもアイヌなどいくつかの言語が消失の危機にあると聞いている。民族の文化と誇りを伝えてきた言葉を子供たちに引き継いでほしい」と話した。